

【学校教育目標】 夢に向かって 自ら学ぶ 豊かで たくましい生徒

黒西中だより

TEL 048-768-5454

心のホット相談室 TEL 048-764-1110

<http://kuronishichu.style.cocacn.jp/>



第 3 号

令和5年6月1日

生徒数		
1年	82名	3学級
2年	91名	3学級
3年	98名	3学級
4組	2名	1学級
5組	2名	1学級
合計	275名	11学級

ギターの「Fコード」～壁を乗り越えよう！～

校長 檜田 光東

梅雨を思わせる湿った風を感じる季節となりました。音楽室からはさわやかな歌声が、校庭からは力強いかけ声と、走っている友達を元気づける応援の声が聞こえてきます。

さて、私の趣味はアコースティック・ギターを弾いて歌うことです。友達がギターを弾いていて、吉田拓郎さんや長渕剛さんの歌を歌うのを見て、「かっこいいなあ！」と思い、お小遣いをためて当時1万円のギターと教本を買って独学で始めたのが中学2年生の頃でした。

最初の壁はチューニングでした。ピッチパイプというハーモニカのようなものを吹いて出した音で5弦の音を合わせ、それを基に他の5本の弦の音を合わせます。音感が不安定な自分は音の高低がわからず、いきなり弦を巻きすぎて切ってしまうところから始まりました。次の壁は、弦を1本ずつ弾いてきれいに響くか。次の壁は、複数の指を使ってコードを押さえ音がきれいに響くか。次の壁は、曲に合わせて簡単なコードをタイミング良く切り替えていけるか等。ここまでは、まあ、なんとか、苦しみながらも、できるようになりました。

次の壁は私の前に大きく立ちました。それが「Fコード」です。これは人差し指で6本の弦を一度に押さえるという、神業としか思えない押さえ方でした。「そんなことが本当にできるのか。」やってみると人差し指の力がうまく6本の弦に伝わらず、音がきれいに響きません。ぎゅっと握り続けるので左手の親指のつけねが痛い。しっかり押さえているつもりなのに音は響かない。「Fコード」が無い曲だけ歌うしかないか。それでは本当に歌いたい「Fコード」のある歌が歌えない。友達はいとも簡単に「Fコード」を押さえ弾いている。何度やってもだめ。もう、ギターを弾くのをあきらめようか。挫折しかけた、そんな時でした。『Fコード』をハイポジションで押さえ感覚をつかむ」という練習方法を知りました。「Fコード」を右手側のボディに近い高音のポジションで押さえ、こつをつかむという方法です。実際にやってみると、確かに押さえやすく、同じ感覚で押さえても音は比較的きれいに響くことに気づきました。気持ちがぱっと明るくなり、なんとなくこうすれば人差し指で6本の弦が押さえられ、「Fコード」の音をきれいに響かせることができるというこつをつかみました。少しずつ左のポジションにずらし、時間はかかりましたが、本来の「Fコード」の場所で押さえ、完璧ではないけれど全体的に音が響くようになりました。「Fコード」のある曲も弾くことができ、ますます楽しくなりました。歌は相変わらず下手ですが。

何か好きなことを続けていく途中で、必ずいくつかの壁が立ちます。好きなことだけど、嫌になってしまう瞬間があります。それをどのように乗り越えていくか。答えは一つです。続けることです。くじけず、あきらめずに、続けていけば、必ずいつかどこかで何らかのこつをつかむことができます。いったん、できてしまえば、「どうしてこんなことができずに悩んでいたのだろう。」と思うことでしょうか。ぜひ、みなさんも、それぞれの「Fコード」を乗り越えていきましょう。

保護者の皆様、地域の皆様、本校の教育活動に対して、変わらぬご理解とご協力をお願いすると共に子ども達がそれぞれの壁を乗り越えられるように、ご支援いただきますようお願いいたします。